



赤穂高校弓道部は部員数43人(平成30年5月現在)。弓道着の凛とした佇まいが、美しい。

## 結果を残せたのは自分の射に集中できたから

片桐 玲果さん 〈17歳 中田島〉

平成29年秋の県大会新人戦で個人、団体ともに優勝し、長野県代表として全国大会に出場した赤穂高校弓道部の片桐玲果さん。平成30年5月、3年生として最後の県大会前の弓道場に、彼女を訪ねました。

「弓道を始めたのは高校に入ってからです。近くで見たこともなかつたのでかっこいいな印象でした。弓道は武道のひとつですから、礼儀作法を重んじ、ただ的に当たればいいのではなく、姿勢や動作の美しさも問われます。競技的には的中で計算はされますが、審査となると作法まできっちりきていいと段はどれません。美しく正しい射を目指して自分でどんどん突き詰めていく。弓道は正解がないと言わ

れるとおり、そこに魅力を感じているんだと思いますね。練習通りのことが大会でできるかはとても難しいです。緊張もしますし、当てに走るときに射が崩れてしまいます。昨年結果を残せたのは周りの雰囲気に流されず自分の射に集中できたからだと思います」

玲果さんは、「村の柔らかくて優しい雰囲気は変わらないでほしいな。進学で一旦村を離れることがあるかもしれませんのが、将来もずっと中川村に暮らしたり、堤防を自転車で走り回っていたという想いです」

## 地域のために貢献していきたいという想いで

山口 薫さん 〈41歳 小和田〉

中川村商工会青年部長の山口薰さんは、電気保安管理者として村内外の事業所の保安点検や管理にあたっています。

「商工会に入ったのは、名古屋からUターンした後の30歳になる前、地元の仲間から説いてもらいました。商工会活動の根底にあるのは、地域のために貢献していきたいという想いです。イベントなどの外に向けた活動もありますし、事業の活性化を通して村の発展につなげようという取り組みもあります。坂戸橋周辺では、自分が商工会に入る以前から青年部が整備に携わっていました。坂戸橋が文化財に登録された7、8年前には、村の魅力のひとつである坂戸橋を発信しようと、傷んでいた階段をなお

して安全に下まで降りられるようにし、その後には小学生を招待して坂戸の歴史を学んでもらい流しそうめんをやりました。その後村が整備の応援をしてくれるようになりましたが、草刈りや花壇の手入れは今も青年部の活動として続けています。この地域で事業をして暮らしていくのなら、村の先輩たちとも話せる機会のある商工会のつながりは貴重だと思いました」

玲果さんは、「あるときを境に受け身だった自分が、自分と違う意見でもおもしろいなど感じるようになつたんですね。それから活動が楽しくなりました。商工会に入ったからこそ成長できたことがあります。あるときを境に受け身だった自分が、自分がどうしていいのか迷っていたときに、誰かが『いいよ』って言ってくれたときに、『自分たちでやるべきだ』って思えたんです。それがきっかけで、自分たちでやるべきだと思えるようになりました」



平成30年の第26回中川どんちゃん祭りから、bingo大会の運営にも携わっており好評です。



青年部メンバーは現在13人。坂戸橋周辺の整備は定期的に行っています。



## インタビュー

# 美しい村の人びと



富永創治さんは、一昨年お父さんから富永農園を引き継いだ若き園主です。さくらんぼとブルーベリーを栽培している大沢洞は、もと休耕地だった場所。創治さんが大学4年生のとき、お父さんや研修生たちと畑に戻すことを考えて開墾した思い出深い土地です。

「これは大粒で甘く日持ちのよい紅秀峰とう品種です。現在うちのハウスには、紅秀峰と佐藤錦合わせて77本。さくらんぼ狩りのシーズンは、連日観光バスで大勢の方が来てくださいます。ありがたいことに半分以上がリピーターなんですよ」

さくらんぼを手に、にこやかに語る創治さんは、子どもでも手が届くように下枝を払われています。ありがとうございます。さくらんぼ狩りのリピーターなんですよ」

さくらんぼ、ブルーベリーの他に、自宅近くでりんご、もも、柿、水田など幅広く手がける富永農園。ご家族に加え、就農研修生や熟練のパートさんなど多いときは20人ほどが、四季折々のさまざまな作業に従事しています。

汗を流しながら毎日にここに農業を楽しんでいる両親の姿を見て、「きたない、つらい、きつ」というイメージが変わってきました。自分も汗を流すのは好きだよなあと。景観にせよ農地にせよ、中川村の一次産業が美しい村を守っています。守っている多くの方は60歳以上。その方々が将来働けなくなつたとき、今の若い世代だけで村を維持することが果たしてできなつてきます。けれども自然とともに生き、四季に添いながら人間らしい生活ができる農業の魅力を伝えたいです」



富永創治さんは、「中学までは農業なんて大変だなあと思つてました。高校に入った頃から、汗を流しながら毎日にここに農業を楽しんでいました。高校に入った頃から、おもしろい仕事をはじめるのかも心配です。農業はやりがいもあり、食文化が豊かな地域で、おいしい農産物を育んでいます。守っている多くの方は60歳以上。その方々が将来働けなくなつたとき、今の若い世代だけで村を維持することが果たしてできなつてきます。けれども自然とともに生き、四季に添いながら人間らしい生活ができる農業の魅力を伝えたいです」

## 農業ほどおもしろい仕事はないと思いません

富永 創治さん 〈35歳 柳沢〉

ないのは、ひとりでも多くの人のおいしさくらんぼを味わってほしいと思う

想いあればこそ

です。

「中学までは農業なんて大変だなあと思つてました。高校

に入つた頃から、

汗を流すのは好きだよなあと。景観にせよ農地にせよ、中川村の一次産業が美しい村を守っています。守っている多くの方は60歳以上。その方々が将来働けなくなつたとき、今の若い世代だけで村を維持することが果たしてできなつてきます。けれども自然とともに生き、四季に添いながら人間らしい生活ができる農業の魅力を伝えたいです」

